

小児内分泌疾患の臨床的研究

分担研究者 東京医歯大 吉田 久

協同研究者 浜松医大 五十嵐 良雄

慶大 加藤 精彦

京府医大 楠 智一

神奈川こども医療センター 諏訪 城三

金沢大 中島 博徳

千葉大 新美 仁男

国立小児日比 逸郎

本研究班は過去2年間に、本邦小児内分泌疾患の実態（班員が所属する各施設において過去10年間に取扱った内分泌疾患小児の実態あるいは追跡調査）、実地医家や保健所など第1線の人々にも有用な本症のスクリーニングをふくむ診断基準などについて研究してきた。本年度はこれらの成果をふまえて2点を中心に研究を行なった。

(I) 小児内分泌疾患の診断と検査

(II) 同上の治療と予後

(III) その他

その大要は次のようである。

I 主として診断、検査所見などに関するもの

(1) 甲状腺 先天性甲状腺機能低下症（クレチン症）の診断に到るまでの経過の実態につき31例を対象として詳細な検討を行った結果、本症の早期発見には生化学的なマス・スクリーニングばかりでなく、医師一般の診断能力の向上が重要であることが明瞭とされた。またその際の臨床スクリーニングのチェックポイントとして不活発、便秘などの症状を重視すべきことが具体的に提示された（日比ら）。さらに病型別にみると異所性のものが意外に多いこと、診断の実地上には血中T₄値、TSH値などの信頼性が高いこと、あるいはホルモン合成障害における唾液ヨード濃縮能テストの意義を重視すべきことなどが報告された（諏訪）。また新生児における濾紙血液よりのT₄測定（新見）、各種の小児甲状腺機能低下症における血中抗マイクロゾーム抗体などの検査結果が報告された（日比ら）。

一方、甲状腺機能亢進症については病初期の25例に針生検を行なったところ、その組織像は慢性甲状腺炎の像を共有する率が非常に高い（76%）という知見がえられ、この組織像と臨床像・予後との関係が詳しく報告されて本症の病因解明上も注目された（中島ら）。

(2) 下垂体その他

各種の思春期早発症につき間脳、下垂体を中心とした種々の内分泌学的検討を行った結果が詳述され各病型による特長などが指摘された。特に McCune Albright 症候候群に関する検査成績はその思春期早発が必ずしも中枢性ではなく、target organ の異常によることを示す結果がえられた(五十嵐ら)。

本邦小児の血清テストステロンにつき年令別にみた正常値とともに各種小児疾患における成績が報告され、この方面の発達ないし病態生理に多大の有益な知見がえられ(楠)、小児の HCG 試験、血中コルチゾールを指標とした ACTH 分泌能試験に関しても新見がえられた(諏訪ら)。また多数の性分化異常を対象として実態が明かたされ(日比ら)、先天性副腎過形成の病型診断をふくむ迅速な診断に対しては、ごく最近神戸川らが開発した血中ステロイドの測定法の有用性が確認され、この方面に大きな寄与をした(吉田ら)。

II 主として治療、予後などに関するもの

(1) 甲状腺 クレチン症の至適サイロキシン補充量について最近の方法による詳しい検討結果(中島ら)、あるいは各種製剤による治療効果、特に長期予後についての詳細な報告(新美)がなされた。また慢性甲状腺炎の頻度と予後、バセドウ病の治療判定基準(新美)につき重要な知見がえられた。

(2) 下垂体・その他 CB-154 は小児の巨人症に有効と考えられ(楠)、DDAVP(日比・新美・吉田ら)は尿崩症に、また MPA(五十嵐ら)、Cyproterone(加藤、吉田ら)は少くとも一部の小児性早熟にそれぞれ有効と考えられる。副腎疾患に対する hydrocortisone 療法をめぐってその病態と治療上の問題点に関し、実地上ばかりでなく、非常に基本的に意義の深い知見が示された(加藤ら)。

III その他

本報告の末尾にあげた如き諸成果も本研究費の補助などによって行ないえた。紙面の都合上詳細はそれぞれの発表誌を参照されたい。

別添資料

- (1) 五十嵐良雄 他：視床下部症候群(思春期早発症、脳とホルモン 206 医歯薬出版 昭和51年7月30日発行)
- (2) 同上 他：思春期早発症の診断 — 自験例を中心として — 臨床科学、12:202、

1976

- (3) Nakajima.H.et al : High incidence of chronic lymphocytic thyroiditis in apparently healthy school children : Epidemiological and clinical study , Endocrinol , Japon , 22 : 483 , 1975
- (4) 新美仁男他 : 小児慢性甲状腺炎の疫学的研究 , 日内分泌誌 , 52 : 1040 , 昭51
- (5) 同上 他 : 正常健株小児における抗甲状腺抗体の出現頻度 , 同上誌 , 52 : 628 , 昭51
- (6) 諏訪城三他 : 間脳周辺部に器管的な異常をもつ乳児の間脳下垂体系の内分泌機能 , 日小会誌 , 80 , 279 : 1976
- (7) 同上 他 : 特発性下垂体性小人症の成因に関する臨床的検討 , ホと臨24 : 423 , 1976
- (8) 同上 他 : Glucagonによる低血糖症の診断法 , 小児外科・内科 , 8 : 823 , 昭51
- (9) 吉田 久他 : 本邦の小児内分泌疾患と小児保健 , 小児保健研究 , 35 : 99 , 1976

(付) (1) なおCa代謝異常症あるいは副腎不全の小児の危急状態にそなえる目的でこれらの小児に常時携行させるカードの案として

本人の姓名	昭和 年 月 日生 (才)
住所	TEL
連絡方法	
この患児は	のためビタミンD (単位 / 1日)
内服中です。高カルシウム血症 (不機嫌 , 嘔吐 , 多尿) や低カルシウム血症 (筋肉のこわばり , けいれん) が疑われる場合は至急主治医に連絡して下さい。	
主治医名	TEL
テタニー発作のため緊急処置が必要な場合、カルチコール 1 ml/kg (体重) を数分間かけて徐々に静注して下さい。	

[表]

このカードを携帯している子供は副腎不全 (病名 _____) です。

【 _____
 コーチゾン } を服用しています。

- もし、この子供が だるそうに倒れていたり、ぐったりしている時は、(ポケット・カバン)の中の (ハイドロコーチゾン・コーチゾン) と書いた袋の中の錠剤を 錠のませて下さい。
- ひどく、吐いていたり、ショック状態で薬が飲めない時は (ポケット・カバン)の中に (ソル・コーテフ・サキソゾン・水溶性ハイドロコートン) の 注射液とデイスポの注射器

が入っています。静注、皮下注、筋注いずれかの方法で注射して下さい。

3. 旅先やキャンプなどで高熱を出したり、急に手術を受ける場合も（ハイドロコーチゾン、コーチゾン）の投与を止めないで下さい。

4. 家族と主治医の電話番号が裏面にあります。御手数ですが至急連絡して下さい。

緊急を要する場合は110番で救急車を呼びこのカードを見せて下さい。

主治医氏名



〔裏〕

本人氏名		(生年月日 年 月 日生)	
保護者	氏名	続柄	
	住所	電話 ()-()-()	
	勤務先	電話 ()-()-()	
家 族	もし連絡がつかない時は下記に電話して下さい。		
	1. 氏名	続柄	電話 ()-()-()
	2. 氏名	続柄	電話 ()-()-()
	3. 氏名	続柄	電話 ()-()-()
	4. 氏名	続柄	電話 ()-()-()
主治医			
医療機関名	科名	氏名	
病院 医院 電話 ()-()-()	小児科	1.	
	内科	2.	
		3.	
		4.	
		5.	
もし連絡がつかない場合は下記の自宅に連絡して下さい。			
1. 氏名	電話 ()-()-()		
2. 氏名	電話 ()-()-()		
このカードは当院発行の診断書と同様のものと見なします。			
昭和 年 月 日			
住所			
病院長			
			印

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

本研究班は過去 2 年間に、本邦小児内分泌疾患の実態(班員が所属する各施設において過去 10 年間に取扱った内分泌疾患小児の実態あるいは追跡調査)、実地医家や保健所など第 1 線の人々にも有用な本症のスクリーニングをふくむ診断基準などについて研究してきた。本年度はこれらの成果をふまえて 2 点を中心に研究を行なった。